町内に開かれた里山へ

特定非営利活動法人ビオトープネットワーク京都
みささぎの森　プロジェクトリーダー　奥田　智子　さん

もっと多くの町内の方に知ってもらい、関わってもらいたいです。ぜひ町内活動の一環として里山保全活動を取り入れてほしいです。（奥田さん）

特定非営利活動法人ビオトープネットワーク京都は，「人と自然が共生できる地域社会づくり」を目的に，生き物の生態系が成立し一定のまとまりをもって生息する空間である「ビオトープ」の普及や里山保全活動等に取り組んでいます。宇治市白川での里山保全活動に始まり，学校や都市のビルの屋上等を利用したビオトープづくり，木津川の森林復元等の活動を展開しています。そして，2011 年より，「みささぎの森」で里山保全活動を始めました。今回は，主に「みささぎの森」がある西原西町の町内や御陵の地元との関わりを紹介します。

「みささぎの森」は，京都市市営地下鉄東西線「御陵駅」を下りて 10分ほど歩けば辿り着けるくらい身近に存在する「町からすぐに行ける里山」です。

「みささぎの森」がある山自体は奥田さんの私有地ですが，せっかくなので里山として何かに使ってもらいたいと思い，ビオトープネットワーク京都内で話し合い，2011 年から里山保全活動の一環として「みささぎの森」の整備に取り掛かり始めました。現在ではビオネットのスタッフに加えて町内をはじめ御陵近隣の方，京都市内，大津市，遠いところでは兵庫県三田市からも活動に参加する方がおられます。定例会には 10 名から 15 名程の方が参加しており，その中には常に西原西町の町内の方が参加されています。

■町内と関わるようになったきっかけ■

みささぎの森里山づくり活動のチラシや東日本大震災の鎮魂のために始めた「みささぎの森　春のわくわくフェスタ」というチャリティフェスタのチラシを，町内会に回覧を依頼に行ったことから関わりができ始めたとのこと。

最初は当然の礼儀のつもりで伺ったそうです。「あの山でそんなことができるの？」と驚かれたそうですが，「一緒にやりませんか？協力してくれませんか！」と声かけをすると，とても快く受け入れてもらえ，当日は町内の住民もフェスタに参加され，今では町内会長が「回覧は回したのか？」と自然と協力の声をあげていただくようになりました。

■“町内に開かれた里山”を目指して■

「地元との関わりについては，良いことしかありません。」そう語る奥田さん。地元の住民が「みささぎの森」の存在を知り，里山保全に興味を示してもらえるだけでもメリットと考えており，もっと多くの地元の住民に楽しんでもらうために，地元に対して様々な形で還元できる里山を目指しています。例えば，里山の一部を果樹園にし，携わっていただいた方々と収穫祭をしたり，応援してくれる企業などに保養所として里山を活用してもらったりなど，様々な展開を考えています。

また，将来的には町内活動の一環として，地域に開けた里山保全活動を展開したい，と語ります。町内の子ども会でも，ハイキングにちょうどいい森ですから，わざわざ遠くに行かなくても十分楽しめると思います。その他に，町内をあげて里山の清掃活動を少し取り組むだけでも里山への理解と関心が高まります。「ここができたら他でもできる，という前例を作りたい」という想いを胸に，自由に入ってきても大丈夫な“開かれた里山”を山科区全域に広めていきたいと考えています。

■まずは理解してもらうことから…■

「行き当たりばったりではなく，『こういう形にしたい』という理念をしっかりと持って自治会・町内会に説明しに行く方が理解してもらいやすいと思います」と奥田さんは語ります。

何をするのかを伝えることも大切ですが，どういう目的があってその活動をしようとしているのかという「未来への展望」を示すことも大切なことです。地域全体に，思い描いている「未来への展望」を伝えることができたら，もっと協力者も増えていくと思います。ビオトープネットワーク京都さんが実践されているように，地域との連携において，まずはそこを理解してもらうことから始めてみてはどうでしょうか。